

消防団員災害救援ストレス対策研修を実施して

富山県 射水市消防団

1. 射水市の概要

射水市は、富山県のほぼ中央に位置し、北は日本海、富山湾に面し、南側は緩やかな丘陵地で東西は平野部となった半径約7キロメートルのまとまりのある地域で面積109.43平方キロメートル、人口9万4千人を有しています。

平成17年11月に新湊市、小杉町、大門町、大島町、下村の1市3町1村が合併して射水市となりました。「射水」の地名は、古くは「万葉集」の中にも登場する由緒ある地域です。

北部の沿岸部には、国際拠点港湾伏木富山港新湊地区が整備され、環日本海のゲートウェイとして活発に利用されています。

平成24年には港の東西を結ぶ新湊大橋（日本海側最大の2層構造の斜張橋）が開通し多くの観光客でにぎわっています。

そして、南部の丘陵地帯には、豊かな自然を生かした県民公園が造成され市民の憩いの場となっています。また、大学や研究機関も進出するなど地域の利便性を生かした発展が続いています。



2. 射水市消防団の概要

射水市消防団は、1本部・2方面団・27分団・団員数739名（H29年1月1日現在）・条例定員757名で構成されており、消防ポンプ車26台、小型動力ポンプ15台、積載車2台、搬送車1台、広報車2台を配備し、富山湾という優良な漁場を有することから、海上分団を設けています。

「海、川、野、そして里山」の豊かな自然と市民の安全・安心の確保に努めています。また平成21年6月には女性消防団員、平成28年4月には、消防団を退団した経験豊富な団員を日中における災害時のみに出動する「災害支援員」として新たに任命しました。

さらに消防団を応援するサポート事業や学生消防団活動認証制度など、さまざまな取組により新規入団員の促進を図っています。

3. 災害救援ストレス対策研修開催の経緯

近年、自然災害や大規模火災など我々の想像を絶するような災害が多く発生しています。また、凄惨な災害現場を体験することにより強い精神的ショックやストレスを受け、身体に様々な障害が発生するおそれがあります。

このようなことから、「災害時におけるストレ

ス対策が急務である」との団幹部からの意見が多くあり、ストレスに対する知識を高めるため、この研修を開催することになりました。



4. 災害救援ストレス対策研修を実施して

平成28年11月5日(土)に射水市消防本部多目的ホールで、日本医科大学武蔵小杉病院健康管理室・周産期小児医療センター臨床心理士の重村朋子氏をお迎えし、「消防団員災害救援ストレス対策研修」を開催しました。

出席者89人に対し、「惨事ストレス対策」(ストレスの原因や対処法)について、ご講義していただきました。

講義では、PTSDは凄惨な災害現場を体験すれば誰にでも発症する可能性があり、身体に及ぼす症状は個人差があること、また、思い込みや罪悪感などが自己嫌悪に陥り症状をさらに悪化させる要因であることなどを詳しく説明していただきました。

ストレスをため込まずうまく解消するには、どんなことでも家族や団員同士で話し合える環境が重要であると再認識しました。また、講師を交えての活発な意見交換があり大変有意義な研修となりました。



5. 今後の取組について

今回の受講を契機に、団員間の惨事ストレスに対する理解や知識が大いに高まったと思います。幸いにも当市では、惨事ストレスにより直接業務に支障をきたした報告はありませんが、今後発症する可能性もあることから、心のケアを重視した組織体制を目指していきたいです。

そして、火災予防活動はもちろん、市民から期待される消防団活動ができるよう努めてまいります。